

SHIRAKOBATO

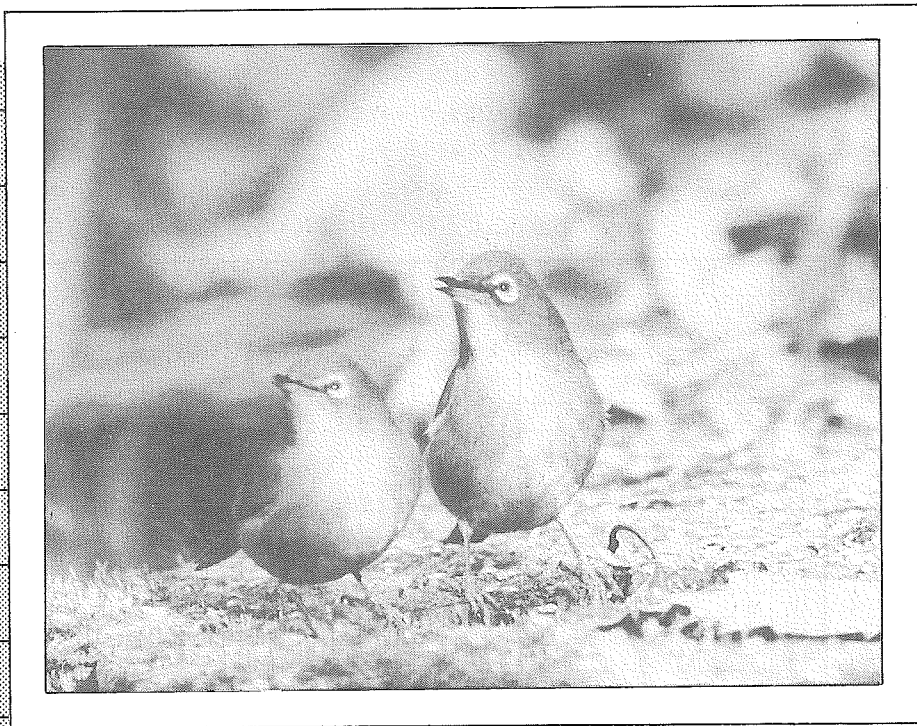
しらこぼと



1991. **1**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 80

日本野鳥の会 埼玉県支部

今年も 秋ヶ瀬



秋ヶ瀬って

秋ヶ瀬というと、一般には秋ヶ瀬橋から羽根倉橋までの秋ヶ瀬公園をさすが、鳥仲間では、治水橋から秋ヶ瀬橋までの範囲をさすことが多い。したがって、荒川左岸の河川敷に広がる公園・雑木林・アシ原・水田・グラウンド・荒川本流などさまざまな環境があり、今までに200種以上の野鳥が観察されている。

ここにまとめたものは、1982年から1990年までの記録が主になっている。個人的な記録であり、それも不定期である。特に渡りのシーズンである4～5月・9～10月の記録が多く、8月や2月の記録はあまりない。

この9年間に環境もずいぶん変わった。河川敷に広がっていた田が埋め立てられ、グラウンドになったり、遊水池や堤防の工事などが行われている。特に秋ヶ瀬橋から羽根倉橋間の田は、ほとんどがグラウンドになってしまった。また大久保浄水場前の田もグラウンドになり、アシ原やため池なども減少した。

観察時期等に変化があった鳥

この9年間で特徴のある変化をした鳥をあげると、コゲラ・シジュウカラ・カワウ・アオサギ・セグロカモメ・コアジサシ・アジサシ・ノスリなどがあげられる。

コゲラは都市鳥として注目されてきて、'87年9月から与野市の雑木林で見かけるようになったので、いつか姿を見せろだろうと思っていた。秋ヶ瀬では、'88年1月にピクニックの森で初めて観察をして、その年には繁殖もしている。今では通年見られるようになった。

シジュウカラは、'84年までは夏季には個体数が減り観察されないこともあったが、だんだん夏季にも観察されるようになった。

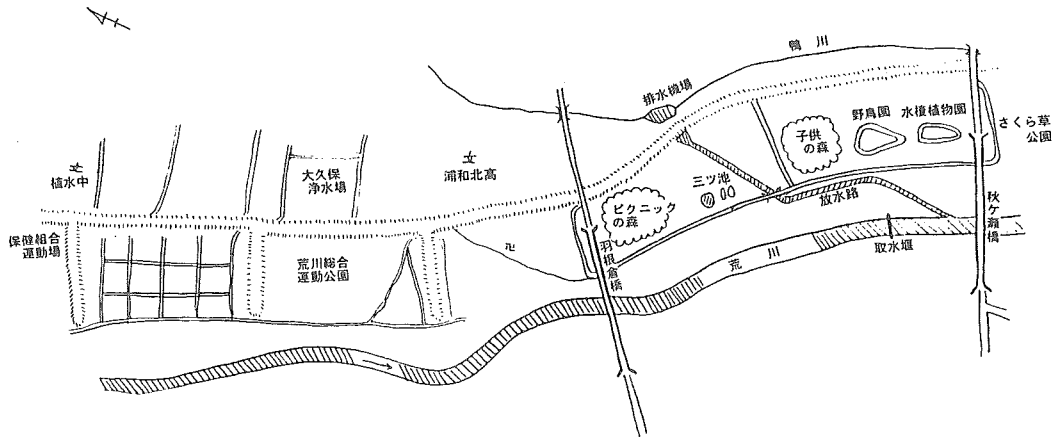
カワウとアオサギは時々見られる鳥であったが、'85年から冬季に排水機場でよく観察されるようになった。

個体数は少ないが、冬季にセグロカモメもしばしば観察されるようになってきた。個人的な記録では、'84年に中川で見かけてから、埼玉県で見かけるようになった。秋ヶ瀬では

独断による秋ヶ瀬においてよく観察される鳥

No.	種名	春	夏	秋	冬	No.	種名	春	夏	秋	冬
1	カイツブリ	○	○	○	○	24	コゲラ	○	○	○	○
2	カワウ	○			○	25	ヒバリ	○	○	○	○
3	アマサギ	○		○		26	ツバメ	○	○		
4	ダイサギ	○		○		27	ハクセキレイ	○	○	○	○
5	チュウサギ	○		○		28	タヒバリ	○			○
6	コサギ	○	○	○	○	29	ヒヨドリ	○	○	○	○
7	マガモ	○			○	30	モズ	○	○	○	○
8	カルガモ	○	○	○	○	31	ジョウビタキ				○
9	コガモ	○			○	32	ツグミ				○
10	ヒドリガモ	○			○	33	ウグイス	○			○
11	オナガガモ	○			○	34	オオヨシキリ	○	○		
12	ホシハジロ				○	35	セッカ	○	○	○	○
13	キンクロハジロ				○	36	シジュウカラ	○	○	○	○
14	コジュケイ	○	○	○	○	37	ホオジロ	○			○
15	キジ	○	○	○	○	38	カシラダカ	○			○
16	コチドリ	○	○	○		39	アオジ	○			○
17	ムナグロ	○		○		40	カワラヒワ	○	○	○	○
18	タカブシギ	○		○		41	シメ	○			○
19	イソシギ	○	○	○	○	42	スズメ	○	○	○	○
20	タシギ	○			○	43	ムクドリ	○	○	○	○
21	ユリカモメ	○			○	44	オナガ	○	○	○	○
22	キジバト	○	○	○	○	45	ハシボソガラス	○	○	○	○
23	カッコウ		○			46	ハシブトガラス	○	○	○	○

秋ヶ瀬バードマップ



'89年から観察されるようになったが、それ以前の記録もあるかもしれない。秋ヶ瀬よりは旧荒川河川であるびん沼川でのほうが、観察されることが多いようである。

反対にあまり観察されなくなってきたのがコアジサシ・アジサシである。'82年以前は、コアジサシは夏季（5月～9月）に、アジサシは秋季（8月～10月）に観察されていたが、今ではまれに観察されるだけである。

ノスリは'87年から主に大久保浄水場付近の農耕地で越冬するようになった。

環境の変化によるもの

環境の変化の影響を受けたと思われる鳥は、オオジュリン・バンなどがあげられる。

オオジュリンはアシ原の減少により、少なくなっている。

バンは荒川などで繁殖をしていたが、今では、大久保浄水場前の農耕地にあるため池で観察されるだけである。ため池やアシ原の減少、荒川の工事によるものと思われる。

マガモ・キンクロハジロ・ホシハジロは、以前も観察されていたが、個体数は多くなかった。しかし、荒川の河川工事が行われてから多数が観察されるようになった。工事のためかどうかわからないが、ある程度環境の変化も関係していると考えられる。

渡りのときの特徴的な鳥

渡りのシーズンに定期的に観察される鳥として、シギ・チドリの仲間であるムナグロ・タカブシギ・チュウシャクシギ・キアシシギ・ウ

ズラシギ・タンギ・ジシキ類などや、ムネアカタヒバリ・ノビタキ・キビタキ・センダイムシクイ・エゾビタキなどの小鳥類があげられる。

シギ・チドリ類とムネアカタヒバリ・ノビタキは羽根倉橋の上流の農耕地で、キビタキ・センダイムシクイ・エゾビタキは秋ヶ瀬公園の森で観察されることが多い。

ムネアカタヒバリはほかの地域でもまれであるのに、個体数こそ少ないが定期的渡来地になっているのは、注目に値する。

また、秋ヶ瀬といえばムナグロといわれているように、ほかの地域より渡来数が多く、渡りのルートになっているが、ここ1～2年は数が減ってきている。

まとめると

この地域をフィールドとして観察してきて10年以上になるが、環境の変化が一番大きい問題である。

また、'82年以前に私が鳥を観察しはじめたときは、冬季だけに観察されていたハクセキレイが、今は通年観察されたり、バンが越冬をするようになったり、夏季には減少していたヒヨドリが夏季にも普通に観察されるようになったりと、鳥自体の変化によって、今まで観察されなかった新しい発見もあった。

フィールドを持って、それをまとめることの大切さがしみじみとわかってきた。

これから鳥の観察を始めようとする人は、ぜひフィールドを持って、観察記録をつけることをおすすめする。 (石井 智)

1990年秋のシギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部 研究部

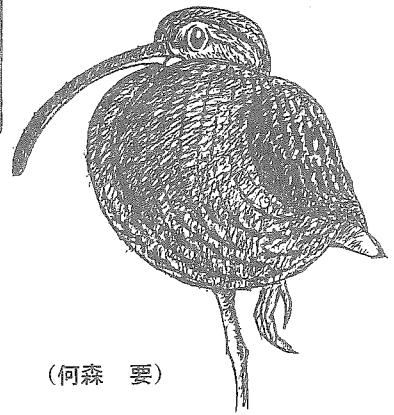
表 1990年秋のシギ・チドリ類調査結果

調査地	利根川 阪東大橋 本庄		入間川 下広瀬 狭山		荒川 秋ヶ瀬 浦和・大宮		荒川 道戸 満田	
	89年	90年	89年	90年	89年	90年	89年	90年
コチドリ	1	1	—	1	—	—	21	27
イカルチドリ	3	2	—	1	—	—	—	—
シロチドリ	2	—	—	—	—	2	1	—
ツバメチドリ	—	—	—	—	—	—	—	8
メダイチドリ	—	—	—	—	—	—	—	1
ムナグロ	—	—	—	5	4	52	36	8
ダイゼン	—	—	—	—	—	—	—	—
ケリ	—	—	—	—	—	—	—	—
トウネン	2	—	—	—	—	—	2	16
オグロシギ	—	—	—	—	—	—	—	5
セイタカシギ	—	—	—	—	—	—	—	1
ヒバリシギ	—	—	—	—	—	—	1	—
オジロトウネン	—	—	—	—	—	—	1	—
ウズラシギ	—	—	—	—	—	—	3	—
ハマシギ	—	4	—	—	—	—	1	—
エリマキシギ	—	—	—	—	—	—	2	—
コアオアシギ	—	—	—	—	—	—	4	2
アオアシギ	3	3	—	—	—	—	15	16
クサシギ	2	1	—	—	—	—	6	8
タカブシギ	—	—	—	—	—	12	4	—
キアシシギ	—	—	—	—	—	—	3	—
イソシギ	2	8	4	7	—	—	9	6
ソリハシシギ	—	—	—	—	—	—	1	—
オオソリハシシギ	—	—	—	—	—	—	2	—
タシギ	2	—	—	—	38	20	7	—
ジシギ SP	—	18	—	—	—	—	8	5
'89年秋20種 個体数	8種 17		1種 4		2種 42		19種 127	
'90年秋17種 個体数		7種 37		5種 15		4種 86		12種 103

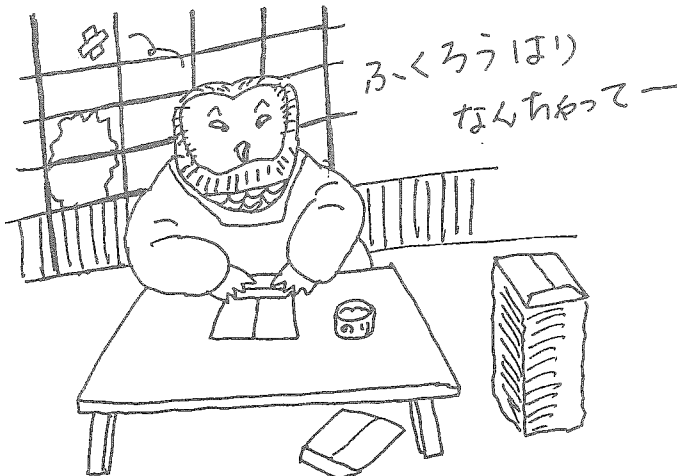
1990年9月15日、秋のシギ・チドリ類の渡り調査が県内4カ所で行なわれた。前々日から秋雨前線が停滞し、当日は雨であった。

調査結果(表)から見ると、戸田市道満が前年同様、種類、個体数のいずれも多い。当地は工事中の遊水池であるため、工事の状況によって個体数が著しく変化する。当地は干潟などシギ・チドリ類が好む様々な環境がモザイク状にあるため渡りの途中の採餌、休息の場として好適なのであろう。

最後に雨天にもかかわらず調査いただいた21名の会員の皆様にご心より御礼申し上げます。次回の調査は4月29日を予定している。(執筆 河辺達郎、小荷田行男)



(何森 要)



(押川歳子)

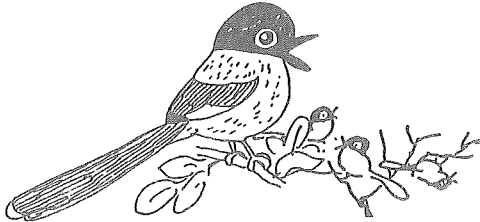
XH'90
谷津で見たこのホース"が"か
かおいて、気に入りました。
重そうなたバシを胸にのけて
ふとやすみの ホウロクシギ
デフォルメぐせがついてますね。
糸田かい所は気に入らないよーに!

地鳴きコーナー

■■■■■■北秋津だより・その4 (11月27日)■■■■■■

水本玲子(所沢市)

今朝、犬の散歩で我が家の近くの北秋津か



(富士鷹なすび)

ら上安松にかけての雑木林を歩いたら、オナガ、キセキレイ、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリと、賑やかな顔ぶれと出会いました。特に30羽以上のオナガの群れが飛びかう姿は、いくら見ても見あきないものです。

今年は野鳥の会に入って1年目。我々は自分たちの生活する場での野鳥観察がほとんどですが、色々な発見があって楽しかったです。

これからも行動範囲を広げながら、野鳥と人間ウォッチングを続けていきたいと思いません。

さえずりコーナー

■■■■■■■■■■ たりないけれど、自然保護 ■■■■■■

海老原美夫(浦和市)

私たちの日本野鳥の会埼玉県支部は、すべてボランティアの手でさええられている。役員や事務局も全員働き盛りの身で、それぞれの社会で重要な位置を占め、いそがしい毎日を送りながら、野鳥の会の活動のための時間をさいている。

その結果として、1,500名の会員たちの協力のもとに、事務局の維持運営、毎月欠かしたことのない『しらこぼと』の発行、年間70回以上、延べ参加者数3,000人近い探鳥会やパネル展の開催、各種の調査研究などの活動を継続している。

そのうえで、その活動の社会的意味についても、常に自問している。

日本野鳥の会埼玉県支部は自然保護団体なのだから、すべてのゴルフ場反対運動や、ある地域の保護運動に、常に主体的積極的に参加しなければならない、そうでなければ自然保護団体とは言えない、という議論を聞かされることがしばしばある。そして、ゴルフ場反対運動のノウハウの蓄積がないといって非難し、ある団体が実施している地域保護運動を積極的に支援しないのはけしからんという。

当然私たちも、野鳥をはじめとする自然を守るためには、努力をおしむものではない。

しかし、限界はある。

それぞれの運動は、それぞれの団体によって懸命に展開されている。そして、私たちはできるだけ協力はしたい。それ以上のことを野鳥の会に要求し、それが満たされないからといって非難されるのは、それだけ私たちに対する期待が大きいのだと、ありがたく受け止めなければならないのかもしれない。

時間がたりない、人手がたりない、資金もたりない、いろいろたりない中で、私たちが展開できる、かつ、担当しなければならない自然保護活動の分野とは、探鳥会などを通じて、自然そのものとの触れ合いの感動をつたえ、自然の大切さを知らせ、それぞれの自然保護運動を支える社会的基盤の裾野を広げていくこと、そして、それぞれの団体が主体となってすすめているそれぞれの運動に対し、出来るだけの協力をしていくこと、そういうことではないかと、今、私は考えている。

編集部から

「会員の声」を、気楽なお便りの「地鳴きコーナー」と、会員の主張と討論の場の「さえずりコーナー」にしました。どちらにも原稿をお寄せください。

編集上の理由で、文章を短縮したり、語句を訂正することもありますから、ご了承ください。短縮や訂正が困る場合は、あらかじめそのことをお書き添えください。



カンムリカイツブリ ◇10月29日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(北川慎一)。11月1日には、4羽(町田好一郎)。

ササゴイ ◇10月3日午後10時30分頃、戸田市緑川の鬼沢橋付近で1羽。当地では夜間よくカルガモやゴイサギが、採食しているのを見かけるが、ササゴイは初めて(高橋達也)。

ナベコウ ◇11月3日午後2時15分頃、川越市の入間川、平塚橋上空を上流に飛んでいた。車で追いかけたが、見失った(長谷部謙二)。(後日、くわしく報告します)

コハクチョウ ◇10月29日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(北川慎一)。11月1日には2羽(町田好一郎)。

ヨシガモ ◇10月30日、本庄市の阪東大橋下流でマガモ群れ中に♂1羽(井上幹男)。

ホシハジロ ◇10月10日、狭山湖で22羽(佐藤方博)。◇10月30日、本庄市の阪東大橋下流で8羽(井上幹男)。

キンクロハジロ ◇10月10日、狭山湖で5羽(佐藤方博)。

スズガモ ◇10月30日、本庄市の阪東大橋下流でマガモ群れ中に♀2羽(井上幹男)。

オオタカ ◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の池の上空を悠然と飛んでいた(宮内滋子)。

ハイタカ ◇11月17日、戸田市道満で1羽。カラスにモビングされて浦和市の秋ヶ瀬方面へ飛び去る(高橋達也)。

サシバ ◇10月10日、狭山湖で2羽(佐藤方博)。

チュウヒ ◇10月27日、深谷市の上武大橋下流で♀1羽(井上幹男)。

ハイロチュウヒ ◇11月1日、本庄市の阪東大橋下流で♀1羽(町田好一郎)。

チョウゲンボウ ◇10月27日、坂戸市入西で2羽、頭上を低空飛翔(増尾隆)。◇11月11日、幸手市木立付近の中川で1羽(秋間利夫)。◇11月16日、浦和市内谷で1羽(小谷野勝栄)。

コチドリ ◇10月27日、幸手市木立付近の中

川で3羽(秋間利夫)。

イカルチドリ ◇10月21日、幸手市木立付近の中川で1羽(秋間利夫)。

シロチドリ ◇10月27日、幸手市木立付近の中川で4羽(秋間利夫)。

タゲリ ◇10月27日午前6時40分頃、桶川市川田谷の江川田んぼで7羽。「ミューミュー」鳴きながら上空を飛ぶ(立岩恒久)。◇11月11日、幸手市木立付近の中川で10羽(秋間利夫)。

オジロトウネン ◇10月21日、幸手市木立付近の中川で2羽。11月21日には3羽(秋間利夫)。

ハマシギ ◇10月26日、幸手市木立付近の中川で7羽(秋間利夫)。◇11月18日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で105羽中の1羽が右足に元赤先黄のカラーリング、左足にメタルリングをつけていた。同所で88年11月~89年2月、89年11月~90年5月に観察された個体と同じと思われる(三田長久)。

アオアシシギ ◇10月9日、本庄市の阪東大橋下流で16羽。鳴きあいながら中州から中州へと飛び回る(井上幹男)。◇10月26日幸手市木立付近の中川で1羽(秋間利夫)。

タシギ(部分白化) ◇10月13日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で左右次列風切り数枚が真っ白な個体1羽。同所で88年11月20日、90年4月29日、5月3日に観察された個体と同じと思われる(三田長久)。

アジサシ ◇10月8日、戸田市の戸田橋付近の荒川で1羽(高橋達也)。

ツツドリ(赤色タイプ) ◇10月3日、戸田市の戸田公園で1羽。6日にも見られた(高橋達也)。

カワセミ ◇10月28日、川口市在家中付近の芝川で1羽(井上雅雄)。◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の池で1羽(宮内滋子)。

アリスイ ◇10月2日、本庄市の阪東大橋下流で1羽、モズに追いかける(井上幹男)。◇10月7日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。

ツバメ ◇10月14日、桶川市川田谷で20羽(立岩恒久)。◇10月14日、狭山湖で1羽(佐藤方博)。

ビンズイ ◇10月14日、狭山湖で1羽(佐藤方博)。◇10月27日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。

ジョウビタキ ◇10月20日、桶川市川田谷の斜面林で♀1羽(立岩恒久)。◇10月22日、秩父市の羊山公園で♂♀各1羽(山岸昭治)。

◇10月25日午前6時、熊谷市箱田で2羽(鈴木忠雄)。◇10月31日、幸手市下吉羽で♂1羽(秋間利夫)。

◇11月10日浦和市内谷で1羽(小谷野勝栄)。◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の池で♂1羽(宮内滋子)。

ジョウビタキ(さえずり) ◇11月7日、川越市月吉町の市営住宅の屋上アンテナで♂1羽。美しい声でさえずる(長谷部謙二)。

◇11月12日午前8時頃、浦和市鹿手袋5丁目の自宅近くの住宅街で犬の散歩中、電線上で「ヒッヒッ」と鳴いている♂の下を通りすぎたところ、急に「ホーヒーチチュルチチュン」と鳴きだした。「ヒー」の音が

高く強く、「チチュルチチュン」の部分はホオジロのさえずりの後半に少し似ている。アンダーラインの「チ」の音が高く、あとは下がる。1分近く鳴き続けて飛び去った。

快晴無風の暖かい日だった。その後シベリアのバイカル地方で録音されたジョウビタキのさえずりのカセットテープを聞いたところ、大変良く似ていて、日本では聞くことができないとあきらめていたジョウビタキのさえずりを、私は聞いてしまったようだ

(海老原美夫)。

ノビタキ ◇10月10日、浦和市三室で3羽(井上雅雄)。◇10月11日、日高町の巾着田で1羽(佐藤方博)。◇10月16日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。

フライングキャッチしているのを見ていると1羽が車の2メートル位まで来てこちらに

表紙の写真

表紙の写真

あいさつ(井上幹男)。◇10月27日、坂戸市入西で♀1羽(増尾隆)。

ノゴマ ◇10月18日、本庄市の阪東大橋下流でマガモの群れを見ていたら、聞きなれない地鳴き。見ると木の枝先にのどの赤いノゴマの♂だった。無中でシャッターを4回切る。まもなく茂みの中に入ってしまった。

その間2分位。朝7時30分のできごとだった! (井上幹男)。

ツグミ ◇10月30日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。◇11月5日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。

◇11月9日、浦和市内谷で1羽(小谷野勝栄)。

コヨシキリ ◇10月1日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷の葦原の中でさえずりを聞く。その後、10日まで同一場所でさえずっていた。姿も見られた(高橋達也)。

センダイムシクイ ◇10月1日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(高橋達也)。

キビタキ ◇10月1日、戸田市道満の釣り堀横の林で♀1羽(高橋達也)。

アオジ ◇10月27日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

ホオアカ ◇10月30日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。

カシラダカ ◇10月27日、深谷市の上武大橋下流で4羽(井上幹男)。◇11月3日、秩父市の羊山公園で5羽以上(山岸昭治)。

オオジュリン ◇10月30日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇10月31日、幸手市戸島で1羽(秋間利夫)。

◇11月11日、幸手市木立付近の中川で1羽(秋間利夫)。

シメ ◇10月30日、深谷市の上武大橋下流で2羽(井上幹男)。◇11月16日、鶴ヶ島町の高倉の池で1羽(宮内滋子)。

ネイチャーフォトコンテスト入選作

メジロ (メジロ科)

餌台に水も置いていたら、メジロが水を飲みに来てくれました。2羽で来ることが多いのでおそらくつがいなのでしょう。

メジロのために特別に水に砂糖を入れておいたら、いつもよりゆっくり餌台に寄って

てくれました。

普段ならカメラのシャッター音に驚いてすぐに逃げてしまうのですが、この日は、砂糖の誘惑に負けて、ハイ、ポーズ。

(登坂久雄・八王子市)

行事あんない



茨城県・菅生沼探鳥会

期日：1月12日（土）

集合：午前8時45分 東武伊勢崎線北越谷駅東口

交通：東武伊勢崎線新越谷8：31発または東武伊勢崎線春日部8：22発に乗車。集合後、バスで現地へ。バス代は570円程。小銭を御用意下さい。

解散：現地にて午後2時ごろ。

担当：中島康夫、石川敏男、楠見邦博

見どころ：鳥いっぱい、自然いっぱい菅生沼。

コハクチョウやカモ類をはじめ、ワシタカ類、大型ツグミ類など、さまざまな鳥が見られます。約8kmのコースを歩けば、お正月の運動不足も一挙に解消。しっかりした靴でどうぞ。

注意：車で来られる方は、前もって中島までご連絡下さい（ ）。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月13日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：00発または秩父鉄道寄居8：52発に乗車

担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、逸見峻、関口善孝、諏訪夕香子、田口浩司、宮坂亨

見どころ：今年もよろしく、定例探鳥会（I）

冷たく澄んだ空のもと、カモやコハクチョウ浮かぶ荒川のほとりで、新年の

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇

- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

誓いを立ててみては？ たたとえば「今年は、毎月必ず定例探鳥会に参加するぞ！」とか……。

川越市・西川越探鳥会

期日：1月13日（日）

集合：午前9時 川越線西川越駅前

交通：川越線大宮8：34発→川越で高麗川行き乗継ぎ8：56発→西川越8：59着

担当：乗田実、長谷部謙二、石井幸男、三田長久、佐久間博文、吉田喜代実

見どころ：ナベコウで一躍有名になった西川越。

でも、ここの本当の魅力は、いつも変わらず元気な姿を見せてくれる身近な水辺の鳥たちと、郷愁あふれる川原の風景ではないでしょうか。

ガン・カモ類一斉調査

期日：1月15日（火・祝）

集合：午前9時

埼玉県支部では、今年も全国一斉調査に参加します。下記の地点は特に、多くの会員のご協力をお願いしたい箇所です。

◇久喜市・昭和池

集合場所：昭和池駐車場

担当：松井昭吾

◇所沢市・狭山湖

集合場所：狭山湖堤防の上

担当：登坂久雄

いずれの地点も解散は昼近くの前定。雨天決行です。調査ですので参加費は要りません。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：今年もよろしく、定例探鳥会（Ⅱ）年が変わって気分も変わると、いつものコース、いつもの風景も、何となく輝いてみえる。芝川で、斜面林で、鳥たちに新年のごあいさつ。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月26日（土） 午後1時～3時ごろ

会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間に入って進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、茶色5階建マンション1階＝徒歩5分）

案内：今年も、『しらこぼと』達は、あなたの力を借りて、この小さな事務局から各地へ、飛び立ってゆきます。

野鳥写真クラブ定例会

とき：1月26日（土） 午後3時～5時ごろ

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：いいトリ、いいヒト、いい写真との出会い、今年も楽しみにしています。

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月27日（日）

集合：午前9時30分 東武バス百穴入口前
交通：東武東上線東松山駅東口8:58 発または高崎線鴻巣駅東口8:50 発バス

担当：榎本秀和、岡安征也、石井幸男、逸見峻、内藤義雄、吉原俊雄

見どころ：刈田に群れ飛ぶタゲリは、冬の吉見の名物です。もうひとつ、忘れちゃいけない名物は、大沼のカモの群れーと書いたら、30種近くの里の鳥、森林の鳥に「私たちも忘れないで下さい」と文句を言われてしまいそうです。

川口市・差間探鳥会

期日：1月27日（日）

集合：午後2時45分 武蔵野線東浦和駅前
交通：武蔵野線北朝霞14:20 →武蔵浦和14:27 →南浦和14:30 →東浦和14:34

解散：大崎事業所バス停付近で、午後5時頃
担当：手塚正義、伊藤芳晴

見どころ：夕闇せまる差間の里にコミミズク。枯野を音もなく飛びまわる、ちょっとブキミで神秘的なその姿求めて、たそがれ時のミステリー散歩。

嵐山町・菅谷館跡探鳥会

期日：2月3日（日）

集合：午前9時 東武東上線武蔵嵐山駅前
交通：東武東上線川越8:13 発特急、または東武東上線寄居8:16 →小川町で乗継ぎ8:33発急行

担当：森本國夫、諏訪隆久、橋本博夫・千枝子、林滋、町田好一郎

見どころ：静かな冬の雑木林を歩く。どこかで落葉がカサッ。そこにいるのは誰？アカハラ君かな？頭の上を通りすぎた小さなざわめきは、エナガにメジロ、カラの仲間たち。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：2月3日（日）

集合：午前8時45分、東北本線蓮田駅東口バス停前（その後現地までバス利用）

担当：中島康夫、石川敏男、小林恒雄、浅田徳次、五十嵐浩

見どころ：水鳥をながめつつ、沼を一周。岸辺にたたずむダイサギやアオサギ。イカルチドリは日なたぼっこ。コガモは彼女にディスプレイ。ふりそそぐ光の中に、春の予感。



スズメ（登坂久雄・八王子市）

行事報告

9月15日(土、休) シギ・チドリ類一斉調査
がんばってくれた人 石井智、金井祐二、草間和子、佐久間博文、佐藤方博、進藤隆、高草木泰行、高橋達也、立岩恒久、登坂久雄、中川一郎、中村一久、二村英克、長谷部謙二、福井恒人、藤原寛治、藤原真理、町田好一郎、三田長久、簗輪眞澄、渡辺泰子(21人) 本庄市の阪東大橋付近の利根川、浦和市の秋ヶ瀬から大宮市にかけての荒川の河川敷、狭山市の入間川、戸田市の道満で調査が行われました。皆さんご苦労様でした。

セミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボンガラス ハシブトガラス(38種) 公園への移動中に早くもジョウビタキや人気者のカワセミの歓迎を受けてにぎやかなスタート。カモたちの姿は見えなかったがハイキング気分で深まり行く秋を楽しんだ。

10月27日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
がんばってくれた人 何森要、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、佐藤方博、鈴木秀男、墨江光子、墨江雄三、登坂久雄、藤野富代、渡辺敦、渡辺孝章(13人)

11月1日(木)～6日(火)

バードウォッチングウィーク展「自然探訪」
 埼玉新聞の記事でも『趣のある』と好評を得たイベントは、10月31日の夜の展示作業も含め、多くのボランティアによって運営されました。ご苦労様でした。

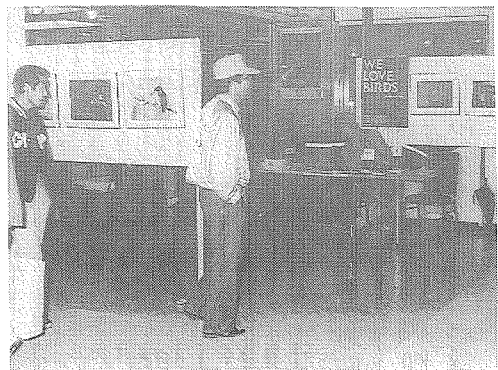
10月27日(土) 写真クラブ定例会
集まった人 17人 **作品発表した人** 4人

伊藤芳晴、海老原教子、海老原美夫、岡安征也、小淵健二、角田真喜子、金井祐二、草間和子、楠見邦博、楠見文子、佐久間博文、関口善孝、鈴木忠雄、鈴木秀男、諏訪隆久、諏訪夕香子、立岩恒久、登坂久雄、内藤義雄、中島康夫、橋本博夫、橋本千枝子、林滋、菱沼一充、菱沼洋子、藤野富代、福井恒人、逸見峻、町田好一郎、森本國夫、森本陽子、山部直喜(32人)



ウラギンシジミ (渡辺敦・羽村町)

10月28日(日) 川越市 川越水上公園
人 34人 **天気** 晴 **鳥** ダイサギ コサギ カルガモ コガモ トビ オオタカ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ インシギ タシギ ユリカモメ キジバト カワ



11月3日(土、休) 上尾市 丸山公園

人 36人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ カルガモ コジュケイ タゲリ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ノビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(28種) スタートして雑木林に入ると、カケス、ジョウビタキ、シメがこの秋初めて見られた。冬鳥たちが出揃うのはもう少し寒くなってから。

11月18日(日) 浦和市 三室地区

人 62人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ キンクロハジロ ハシビロガモ チョウゲンボウ コジュケイ タカブシギ イソシギ タシギ ツルシギ コチドリ ユリカモメ キジバト コゲラ アオゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(40種) 10月の探鳥会の様子が読売新聞に掲載されて、全国的に有名になった? 三室。初参加の人も多く、のんびりした探鳥会になった。受付の時から目の前の木にアオゲラが登場。芝川には、ここで初めてのツルシギが出た。空には一面に、カワウ、ユリカモメ、カモの群れ、最後にはチョウゲンボウが飛んで、三室の秋を皆で存分に味わえた。

11月23日(金、休) 長瀬町 荒川

人 46人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ オシドリ カルガモ トビ オオタカ ハイタカ クマタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ム

クドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(37種) 紅葉真っ盛りの秩父路。どこも観光客で一杯。でも、バードウォッチングは我々だけで何か寂しい感じも。お目当てのヤマセミは、あまりの賑やかさに驚いたのか姿を見せず。でも、清流にあそぶオシドリの鮮やかさ、大空に舞うクマタカの勇姿などを楽しんで気分は最高。

11月25日(日) 坂戸市 高麗川

人 42人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ マガモ カルガモ オオタカ コジュケイ イカルチドリ タゲリ クサシギ イソシギ キジバト アリスイ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種) お目当てのヤマセミは残念ながら現われなかったが、アリスイを近くでじっくり観察できた幸運な人達があった。解散後の昼食中にカワセミがやっと登場してくれた。高麗川では河川工事が行われており、ヤマセミ、カワセミのほか、水辺の鳥たちの将来が心配だ。

12月2日(日) 本庄市 阪東大橋

人 52人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ トビ オオタカ チョウゲンボウ イカルチドリ ハマシギ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス(34種) VIP(ナベコウ)に一日会いたさで沢山の人が阪東大橋を訪れた。期待は大きかったが、季節外れの台風のため、強風が吹荒れていて残念ながら姿は見られなかった。でも、そのお陰でオオタカは間近で、チョウゲンボウもじっくりと観察できた。まずは上々の一日。



リゾート法の廃止を求める

いわゆるリゾート法と呼ばれている総合保養地域整備法は、自然公園法・自然環境保全法・森林法・農地法・都市計画法などの自然環境や生活環境を保全するための法律を形骸化し、特定の民間開発業者に課税の特例や地方公共団体による助成など多くの優遇措置を与えることによって、際限ない乱開発による良好な自然環境の大規模な破壊など、重大な悪影響が考えられる「戦後最悪」といわれる法律です。

ゴルフ場問題全国連絡会では、リゾート法の廃止を求める団体署名活動を開始、当支部にも要請がありました。

今回は個人の署名を集めるものではなく団体署名ですので、当支部として衆・参両議院議長あての陳情書に署名し、連絡会に送りました。

(リゾート法について知りたい方は、リサイクル文化社=TEL 03-367-8051=発行、ゴルフ場問題全国連絡会編、『リゾート開発への警鐘』=1,000円=をご覧ください。)

カスミ網署名38万人!!

ご協力をいただいておりますカスミ網の一般販売禁止を求める署名は、12月5日現在38万7,507人、当初目標10万人の4倍近くにもなりました。この大きな声を背景に、一気に一般販売禁止の法制化を達成しようと、今、本部の保護部を中心として、懸命の努力が続けられています。

コピー用紙も再生紙使用

当支部発足以来、無料でご寄付いただいた古いコピー機を使用していましたが、ようやく新しいコピー機を購入することができまし

た。それにともない、11月18日の役員会で相談して、今後コピー用紙も、再生紙を使用することになりました。

現在残っている上質紙がなくなりしだい、再生紙に切り替えます。

1月の土曜日当番 (2時~6時)

- 1月5日 休み
- 1月12日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 1月19日 諏訪隆久 石井幸男
- 1月26日 袋づめの会 (1時から)

会員数は

12月1日現在 1,472人です。

活動報告

- 11月17日 編集会議。『しらこぼと』12月号の原稿を印刷所に入稿。
- 11月18日 役員会議(司会:福井恒人、各部の報告・事務局の賃貸借契約更新・コピー用紙・評議員会と関ブロ会議・その他)
- 11月29日 記録係の作成した役員会報告をコピーして、全役員に送付(事務局=役員会の都度毎回送られています)。
- 11月30日 12月号印刷所から納品。
- 12月1日 袋づめ。普及部会議。
- 12月3日 12月号郵便局から発送(事務局)。



編集後記

11月後半の3連休を利用して道東へ行ってきました。景色の雄大さ、広さを満喫してきました。ただビックリしたのは、地元の車の速さ。70キロぐらいで走っているとドンドン抜かれちゃう。でも、いつのまにか一緒になって走っているのだった。車からかいま見えるカケスの頭が茶色だったり、エゾシカが道路の真ん中にいたり、ちょっといい2泊3日でした。(藤原寛治)

『しらこぼと』1991年1月号(第80号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)